

Market Flash

発表日: 2019年3月22日(金)

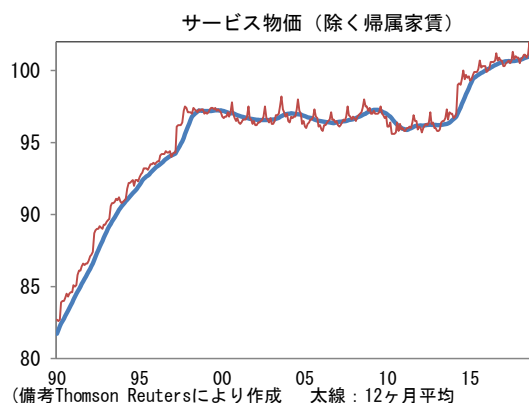
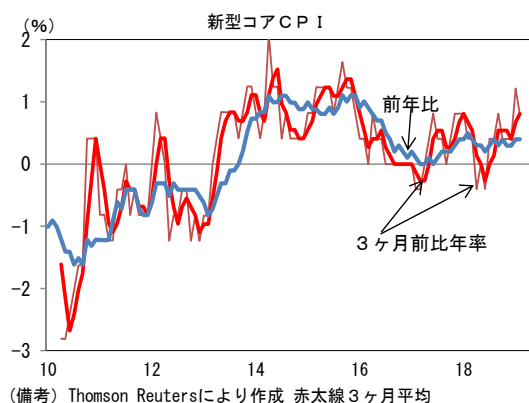
- ・良くも悪くも0%台後半(日CPI)
- ・年内引き締めなし(FOMC)

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4521)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利上げ打ち止めが視野に入中、先行き12ヶ月で105へと下落しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年春頃まで維持するだろう。
- ・FEDは利上げを停止し、2019年は様子見を続けるだろう。

< #消費者物価 #サービス業 #内生インフレ #FOMC >

- ・**2月消費者物価**はコア(除く生鮮食品)が前年比+0.7%、新型コア(除く生鮮食品、エネルギー)が+0.4%であった。予想比ではコアが0.1%pt下振れ、新型コアが一致。1月との比較ではコアが0.1%pt鈍化、新型コアが不変。季節調整済前月比はコア、新型コアともに+0.1%であった。新型コア(季節調整値)のモメンタムは3ヶ月前比年率で+0.8%と再び機首をもたげつつある。
- ・内生的インフレを計測するうえで重要なサービス物価は前年比+0.6%と、緩やかな加速基調にある。こうした動きはサービス業PMIや日銀短観の販売価格判断DIが上昇傾向にあることと整合的で内生的インフレメカニズム発生が窺える。消費の基調は決して強くないが、労働集約的なサービス業においては、企業経営者が労働者の維持・確保の重要性を再認識する下、労働コストが増加し、それを価格転嫁する動きが続いているのだろう。

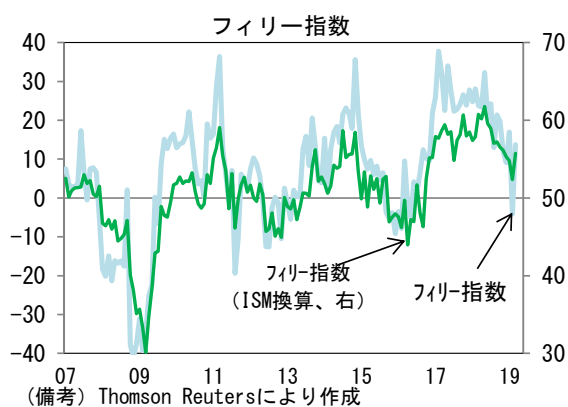


【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米国株高に追随して高寄り後、前日終値近辺まで水準を切り下げている（10:30）。

【その他海外経済指標他】

- ・ **3月FOMC**はFFレートの据え置きを決定。同時に2019年の利上げ計画を2回（FF金利上限3.00%）から0回（2.50%）へと引下げ、バランスシート縮小を9月に停止する計画を示した。19年のドットチャート利上げ計画は中央値が0回か1回（2.75%）のどちらになるか微妙なところではあったが、18名中11名の参加者が0回の計画を示すハト派色の強い結果であった。「年内」との予想が多かったバランスシート縮小停止の時期が9月とされたことも、ややハト派な印象を受ける。
- ・ FOMCを受けて金融市場が織り込む“利下げ”確率は20年1月FOMC時点で48.8%へと上昇し、米債市場ではカーブ全体で金利低下。2年金利は2.408%（21日引け時点）と2.5%を明確に割り込み、10年も2.537%へと低下し、30年金利は2.967%と節目の3%を割り込んだ。
- ・ **3月フィラデルフィア連銀製造業景況指数**は+13.7と2月（▲4.1）から大幅に反発。ISM換算では55.8へと3.4pt改善し、19年入り後の落ち込みを取り戻した。既発表のNY連銀調査と併せて考えると3月のISM製造業は小幅改善が見込まれる。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は反発。20日はFOMC後に金融株が下落し、全体を下押し。21日は金融株下落が一巡する下で幅広いセクターに買いが入りS&P500は1%程度上昇。NASDAQは1.4%上昇。WTI原油は59.98^{ドル}（▲0.25^{ドル}）。
- ・前日のG10通貨はUSD買い優勢のなかでGBPが軟調。20日FOMC直後のUSD売りが一部巻き戻されるなか、BREXIT関連のニュースフローを受けてGBPが売られた。USD/JPYは110後半で一進一退。EUR/USDは1.13前半で推移。
- ・前日の米10年金利は2.537%（+1.1bp）で引け。20日FOMC後にカーブ全体が急低下した後、21日は米株高を横目に小幅ながら金利上昇。欧州債市場（10年）はドイツ（0.041%、▲4.3bp）、フランス、イタリア、スペインが大幅に金利低下。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。